

「枝野の秘書になったワケ」

96年3月、私は枝野事務所に入りました。当時はまだ、堀の内のワンルームマンションに事務所がありました。

「どうして枝野さんの秘書になったの？」多くの人に聞かれます。

正直を言うと、たくさんの理由が重なってのことなので、なかなか一言で答えるのは難しいです。

まず、私には、地域に密着した仕事がしたいというのがありました。地域の色々な人と出会い、ともに歩んでいけるような仕事…当時休職中だった私は、そういう仕事を探していたのです。

そして、96年は、薬害エイズ事件が大変な正念場を迎えておりました。私も関心をもって講演会にでかけたりしていたのですが、この問題で一生懸命取り組んでいる議員が実は近くにいるということを知りました。…それが衆議院議員枝野幸男だったのです。

また、当時枝野幸男議員が所属していたさきがけという政党に共感をもっていたというのがあります。

私が1年間、京都で大学の聴講生をしに行っていた際に、あの日本新党ブームの選挙があり、その時ボランティアでかけつけて応援した前原誠司さんと、ずっと行動をともにしてきた議員であるということもありました。

実は、私はオープンミーティング(枝野幸男が毎月1回行っている国政報告会)に1度しか出たことがないまま、事務所の門を叩いているのですが、それこそ様々な事情が重なる中で、その1回は、この人だと思うのに十分なものがあつたのでした。

実際に入ってみると、入る前に思っていた以上に、枝野幸男さんの政策や政治活動の方針と、自分が政治に抱いていた願いが一致することが多く、本当にここで働けて良かったと思っています。

そして、そして。

ここから先は余談ですが、人生には思わぬ出会いというのがあります。

あれは95年秋のことでした。当時、私が長岡にあるとある先進的な病院を見学にいこうと予定を組んでいたところ、友人が、そこまで行くなら浦佐に面白いおばちゃんがいるから一緒に会いに行こう、と言いました。

その時の情報は、とにかく「面白いおばちゃん」というだけ。私は連れられるままに、その方のところへ遊びに行くことになったのでした。

ところが、到着してみれば、なんとその方は、黒岩秩子さん(当時95年の参院選で次点。その後繰り上げ当選で参議院議員に。今は、あの新潟補選を制した黒岩宇洋さんのお母さんと言った方がわかる方が多いかもしれません)。そして、たまたまその日は、導入前の介護保険についての意見交換があるとのことで、黒岩宅を樋口恵子さんと堂本暁子さんが訪ねていら

したのです。

いきなりの出会いにびっくりしていた私に、「高木さんってどこから来たの？」と堂本さん。「埼玉です」と私。

「じゃあ、私たちの仲間の枝野幸男さんががんばっているところじゃない！彼、とってもいいの！よろしく！」これが私の「枝野幸男」の名前との出会いでした。薬害エイズ追及の方面からの出会いは、その後。オープンミーティングに足を運んだのも、堂本さんの一言がきっかけでした。それでもあの時は、自分がその後枝野幸男秘書となるとも、堂本さんが知事になるとも、はたまた黒岩さんの息子さんが参議院議員になるとも、全く予想はできませんでした。が…。